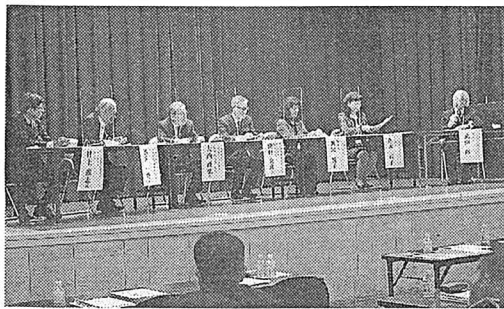


健康起因と過労死

3年ぶり「OCHISセミナー」

事故防止は「合わせ技」重要

運輸業界の健康起因事
 故の防止を支援するNP
 O法人ヘルスケアネット
 理事長・武田裕大阪大学名
 誉教授)は2日、大阪市
 の中央電気倶楽部



で3年ぶりとなる
 対面での「OCH
 ISセミナー」を
 開催。ウェブ同時
 配信のハイブリッ
 ドセミナーとし
 た。今回のテーマ
 は、「健康起因事
 故のさらなる背景
 通省の村上強志安全政策
 セミナーでは、国土交
 約110人だった。

を採る」をメインとし、
 睡眠時無呼吸症候群(S
 AS)や高血圧、生活習
 慣、働き方などともに
 健康起因事故を防ぐ策と
 なる「合わせ技」を追求
 した。セミナーは今回で
 16回目。参加はトロッ
 ク、バス、タクシーなど
 運輸事業者ら関係者で会
 場は約60人、ウェブでは

課長が健康起因事故の現
 状を報告。各モードで発
 生件数が減っているもの
 の劇的な減少ではないこ
 とから「高止まり」との
 見方を示した。この上で
 法令順守とともに国交省
 が策定している健康管理
 マニュアルやガイドライ
 ンの活用を促した。
 さらに今年3月に策定
 した「視野障害対策マニ
 ュアル」に言及し、視野が
 狭くなったり一部欠けた
 りする視野障害による重
 大事故の防止を訴えた。
 国交省の事業用自動車
 事故調査委員会の委員長
 で大原記念労働科学研究
 所の酒井一博氏は、最近
 のタクシーによる重大事
 故を例に、健康診断によ
 る「死の四重奏」「死の三
 重奏」など健康面でのハ
 イリスクドライバーの把
 握を事業者に促した。
 加えて労働災害として
 の事故を防ぐため生活習
 慣を変える働き方改革に
 取り組むことを強く訴え
 た。
 このほか、全日本トラ
 ック協会の大西政弘交通
 ・環境部長が全ト協の取
 り組みを説明し、事例紹
 介として岡山県の鶴山運
 送の田村克彦氏が報告し
 た。
 今回のセミナーでは、
 健康起因のみに事故の原
 因を求めるのではなく、
 過労死も重なっているこ
 とに注視した。パネルデ
 ィスカッションでも健康
 診断で健康状態を把握し、
 ハイリスクドライバーの
 働き方など日常生活の管
 理が必要と結論付けた。